

ジョークサロン12月度例会

つぶやき都々逸

佐藤俊一さん kitami-yosuke@1041sato が #ほぼ日刊都々逸 のタグのもとにツイートしたものです。阿部が12月のツイートから拾いました。

◆お題「魚偏の漢字」

01 さわら（鱈）なくても口にするならキス（鱈）が嬉しい春の頃

02 酒がさめたら目くじら立てた女房の顔が吠えーるか!?

* 鮭が鮫鱈メ鯨立てた女房の顔がホエール (whale) か

◆お題「紙」

03 ハサミ手にお題に応え瞬時に絵を切る魅せるカミワザ寄席の芸

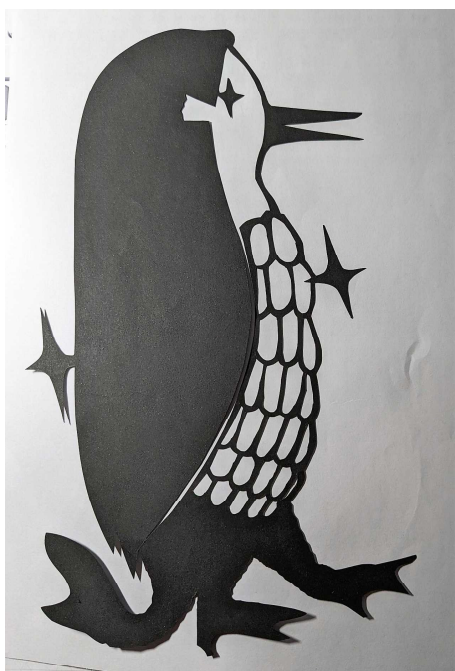
* 寄席の紙切り芸。これがホントの紙技にして”神技”ですな。

04 冷やかしの紙職人は女郎からかい茶化すだけだよ野暮なやつ

* 商品を見るだけで買わない客を「ひやかし」と言いますが、この言葉は吉原遊郭で生まれたもの。昔の浅草界限は和紙職人が多いところで、彼らは紙の原料を冷やす間の時間つぶしに吉原をぶらぶらして見て歩いたことから出た言葉で、「お茶をひく」「野暮」などもやはり吉原が発祥なんだそうですよ。

05 和紙を漉くカミ技ヒントに”板海苔”誕生知って納得おにぎり食う

* 海苔を板状にするのは難儀だったらしい。でも、伝統的な手漉き和紙の技に暗示を得たんだと。



3代目林家正楽「江戸の妖怪アマビエ」



林家今丸「化粧する女」

06 W杯勝負を分けた三苦の一ミリ天国地獄は紙一重

*スペイン戦の三苦薫の超絶足技は「カミ・ヒト・エーッ!?!」



07 紙布の郷白石城の秘密の武具は鉄ビン通さぬ紙わらじ

*紙布（しふ）は和紙を撚った糸で織り上げた布。宮城県白石は江戸期から大産地で知られていました。着物から日用品もつくられていて、紙わらじは鉄ビンを踏んでも平気なほど丈夫な門外不出の秘密兵器でした。

◆お題「音」

08 羊水に浮かび聴いてた安らぐ旋律母の心の愛の音

*赤ん坊に母親の心音を聴かせると寝つきがよくなるという話を専門家に教わり、そのテープをいただいたことがありました。ドーン、ドーン、ドーンというかなりな音ですが、確かに寝つきはよくなりました。

09 凍てた夜に北風小僧が電線鳴らす吹いて悲しき虎落笛（もがりぶえ）

10 凍てし夜に峻烈極めて荒ぶ寒風鳴るは悲しき虎落笛（もがりぶえ）

11 人はみな爪で硝子を引っ掻きゃ怖気る原初の記憶のなせるわざ

*誰もが怖気をふるう、あの音は原初の群れの仲間に命の危機を伝える悲鳴にも似るらしい。人のDNAに刻み込まれた、その遠い記憶がよみがえるから、というのですが、さて。

12 悲しからずやズボンのおなら右と左になき別れ

*啖呵売の名人に教わった名調子のひとつです。映画『男はつらいよ』のフーテンの寅さんもしばしば口にしていたので、耳に馴染みの方も多いかと。ないた数だけ音なびィてゆくズボンのおならの別れ途（みち）

13 泣いた数だけ大人びてゆく別れさだめの旅の途

14 ないた数だけ音なびィてゆくズボンのおならの別れ途（みち）

15 泣いて別れたズボンのおならきょうはスカートおとなしや

◆お題「命」

*ひざまづき真摯に天の声聴く姿。その意で生まれた「命」の字。

16 命消ゆ待つがつからいか別れが憂いか逢えずとも良い世に在れば

17 胸の鼓動も呼吸ひとつも我が意の外でただ起こる

18 何でもないよな暮らしの日々に宿る幸せ知って暮れ